

『現代女性とキャリア』第11号によせて

現代女性キャリア研究所所長

大沢 真知子

働き方改革関連法が成立し、日本の働き方を大きく変える時代になった。人手不足が深刻化するなかで、女性の社会進出も進み、職場も大きく変わっている。

2018年に研究所が開催したシンポジウムでは、女性が活躍する社会が実現されるために、どのような働き方の改革が必要なのかについて考えた。そのなかで出てきたのが、長時間労働が評価される職場の風土（規範）を変えることの重要性であった。

女性の活躍には多様な働き方の選択肢が必要になるが、その制度はあっても在宅勤務やフレックスタイムなどはあまり普及していない。その理由のひとつは、日本の職場のなかにいまのべた長時間労働が評価される風土があるからだ。

このような考え方があると、どうしても長時間労働になりがちである。しかし、それがかならずしも生産性をあげることにはつながらない。むしろ時間制約があったほうが、優先順位をきめて仕事をおこなうことができ、生産性がある。

日本の職場を変えるのは制度だけではなく、わたしたちの考え方を変えていく必要がある。普段当たり前とおもっている価値観を見直し、時代に即して変えていくことが必要な時代がきているのである。